

比較社会文化学府学位論文審査基準

I. 博士前期（修士）課程における学位論文審査基準

1. 審査体制

学位論文の審査は、指導教員団を含む正1名及び副3名以上の審査委員の合議で行う。

2. 評価項目

修士論文の審査においては、学際性・総合性という本学府理念、及び、ディプロマ・ポリシーに示す到達目標をふまえて、以下を評価基準とする。

(1) 研究テーマの位置づけと意義

論文の問題設定が、当該分野の学問的蓄積をふまえて適切かつ明確に示されており、学術的あるいは社会的な意義を有するものであるか。

(2) 研究方法の妥当性

研究主題の探究のために、理論、実験、フィールド調査、資料収集、分析などの研究方法や手段が研究対象と適切かつ効果的に組み合わせられているか。

(3) 論証及び結論の妥当性と意義

問題設定から結論に至る論旨が、論理的に明快であるか。また、結論は当該分野において新規性をもった学術的価値ないし応用的価値を有しているか。

(4) 倫理性と形式性

研究方法や資料・データなどの使い方は研究倫理及び社会倫理に照らして問題ないか。文章表現は適切か。文献や図表の引用は適切になされているか。

(5) 研究能力

学位申請者は、学際性・総合性にもとづく幅広い専門的知識と自主的研究能力を備えていると認められるか。また、研究成果の論理的説明力は十分か。

II. 博士後期課程における学位論文審査基準

1. 審査体制

学位論文の審査は、正1名及び副4名の論文調査委員の合議で行う。

2. 評価項目

博士論文の審査においては、学際性・総合性という本学府理念、及び、ディプロマ・ポリシーに示す到達目標をふまえて、以下を評価基準とする。

(1) 研究テーマの位置づけと意義

論文の問題設定が、当該分野の学問的蓄積に対する深い理解のもとに適切かつ明確に示されており、新規性、独創性をもつ学術論文としての意義が認められるか。

(2) 研究方法の妥当性

研究主題の探究のために、理論、実験、フィールド調査、資料収集、分析などの研究方法や手段が研究対象と適切かつ効果的に組み合わせられているか。

(3) 論証及び結論の妥当性と意義

問題設定から結論に至る論旨が、論理的に明快であるか。また、結論は当該分野における学術の発展に貢献するものであるか。

(4) 倫理性と形式性

研究方法や資料・データなどの使い方は研究倫理及び社会倫理に照らして問題ないか。文章表現は適切か。文献や図表の引用は適切になされているか。

(5) 研究能力

学位申請者は、学際性・総合性にもとづく高度な専門的知識と牽引的研究能力を備えていると認められるか。また、研究成果の論理的説明力及び国際的発信力は十分か。